



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

パレスチナ：統一内閣の発足

6月2日、パレスチナ自治政府のアッバース大統領は、統一内閣（国民合意内閣）を発足させた。西岸とガザの両方を統治する内閣ができたのは、約7年ぶりになる。新内閣の主要任務は、半年後を目安に大統領・評議会選挙を行うことである。政治問題は、同内閣ではなくPLOが扱う。イスラエルは、ハマースがかかわる内閣の成立に反発しているが、米国、EUなど国際社会は保留条件をつけつつも新内閣と接触する方針を表明している。

新内閣は17人のテクノクラートで構成される。ハマドゥラー首相をはじめ、副首相、財務相、外相など主要閣僚は留任した上に、別の主要ポストを兼職している。教育相や通信・運輸相がハマース系の人物との報道もあるが、2日、米國務省報道官は、ハマース系の閣僚はいないと述べた。

アッバース大統領は、2日に、新内閣が中東和平4者協議の提示する3条件（イスラエル承認、イスラエルとの過去の合意尊重、暴力放棄）を遵守することを確認した。3日の初閣議でもハマドゥラー首相が、この点を確認している。米国は、新内閣についてはその行動で判断するとしながらも接触を継続する立場を表明した。EU、国連は米国と同様の条件をつけながらも新政権を歓迎している。イスラエルは、ハマースが関係する政権は認めない立場であり、国際社会の新政権に対する対応に不満を表明しており、ネタニヤフ首相は米国の対応を非難している。

評価

統一内閣の発足は、パレスチナの内部分裂解消のための最初の一步にすぎない。ハマースは、ガザでの統治を形式的には終了することになるが、実質的な統治をまだ行っている。予定通り半年後に大統領・評議会選挙が実施されるかどうか、またその選挙に、ハマースがどう対応するかが次のポイントである。分裂解消の過程では、今後相当の紆余曲折があるだろう。ただ内部分裂の解消は、パレスチナ国家創設のためには避けて通れない道である。

ハマースが、パレスチナ社会で一定の支持を得ているのは確かである。しかし、ハマースは、イスラエルの存在と同国との交渉を認めない立場を維持しながら、PLOとイスラエルとの交渉によって創設された自治政府の選挙に参加する権利は享受しようとした。ハマースは、交渉によって実現した自治に参加するならば交渉相手であるイスラエルの存在を認め、過去の合意を尊重する立場を表明する必要がある。それが認められないのなら、自治政府に関与しない立場を取るしかない。ハマースは、この点に関して立場を明確にしないまま、ガザでの統治を形式的には終了させた。ハマースが次回のパレスチナ自治政府の選挙に参加するなら、それまでにこの点での立場表明を行う必要がある。もしハマースが前回のように曖昧な立場のまま選挙に参加するなら、PAに対する国際的な支援に影響を与え、米国が財政支援を停止する可能性も出てくるだろう。

仮にハマースが3条件を認めるとしても、明確な形でその立場を表明せず、曖昧な形で示唆するに留まる場合、その判断については、パレスチ側、米国など国際社会、イスラエルの間で評価が分かれる可能性が高いし、政治的な駆け引きの材料になるだろう。すでに米国とイスラエルの間では、2日に発足した統一内閣をめぐる判断の相違が新たな軋轢を生みつつある。米国は、統一政権が3条件を認めると明言したことを評価し、同政権との接触を行う方針を表明している。一方、イスラエルは、ハマースが関係する内閣が3条件を認めても、ハマースの立場は変わっていないとして統一政権を認めない立場を取っている。

(中島主席研究員)

パレスチナ統一内閣 (2014年6月2日成立)

ラーミー・ハマドッラー	首相兼内相 (留任)
ジャード・アブー・アムル	副首相兼文化相 (留任)
ムハンマド・ムスタファー	副首相兼経済相 (留任)
シュクリー・ビシャーラ	財務相兼計画相 (留任)
リヤード・マーリキー	外相 (留任)
サリーム・ムスタファー・サカー	司法相
アドナーン・フサイニー	エルサレム担当相 (留任)
ローラ・ムアーイア	観光・遺跡相
ジャワード・アワード	保健相 (留任)
フーラ・シャフシール	教育・高等教育相
アラーム・ムーサー	通信・情報技術相兼運輸相
ムフィード・ハサーイナ	公共事業・住宅相
シャウキー・イーサ	農業相兼社会問題相
ハイファー・アーガー	女性担当相
マアムーン・アブー・シャフラー	労働相
ナイフ・アブー・ハルフ	地方自治相
ユースフ・シャイフ	ワクフ・宗教相

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799